

建築図面の目録作成法 ——1970年代の英国と1980年代の米国

Cataloging architectural drawings:
A comparative analysis of the 1970s' UK and the 1980s' US

齋藤 歩*
SAITO, Ayumu

Resume:

「建築図面」と「建築レコード」とは、異なる考え方で目録が作成される。アーカイブズ学に基づいて発展してきたのは後者であるが、建築分野のアーカイブズ実現には、双方の理解が必要である。そのため本研究では、図書館学を背景とする前者の目録作成法について、三つの事例を比較して分析する。

1. はじめに

例えば「アート・アーカイヴズ」の全訳では、「建築図面 Architectural Drawings」「建築記録 Architectural Records」「建築資料 Architectural Material」と¹、建築分野のアーカイブズに日本で言及するにあたり、原文に応じて異なる訳語が与えられた。国内でも、1980年代の「建築図面」に始まり、「建築資料」「建築アーカイブズ」へと、関心事の呼称は変化を遂げてきた。ただし、定義が検討されることなく、その対象は曖昧であった。

とりわけ、「建築図面」と、発表者がこれまでアーカイブズ学の研究対象としてきた「建築レコード Architectural Records」とは、対象だけでなく目録の作成法も異なる。底本(1996)でもその違いについて言及はないが、発表から約四半世紀が経過し、建築分野のアーカイブズに注目が集まる現在、用語の違いは、実践でのアプローチの違いに直結するため、慎重な使い分けを要する。

2. 英米における目録作成法の検討事例

2.1 王立英国建築家協会

ジル・リバー(Jill Lever, 1935–2017)は、王立英国建築家協会(RIBA)図書館のキュレータとして、同館所蔵の図面コレクションの資料情報を、全20巻の目録(1969–1989)にまとめた²。

この目録シリーズは、共通フォーマットを定めたことで、高い評価を受けた。当時の英国における資料管理の意識の低さに比べて、リバーが達成した目録形式の一貫性と対象コレクションの網羅性とは、それほど際立っていたのである。その

ため英紙ガーディアンは、「革新的な記述法により実現した」と、この目録の価値を表現した³。

その後、この目録シリーズが終盤に入った1978年、助成金を獲得したリバーは、建築図面コレクションの調査のため米国に向かった。

表1 リバーが考案した建築図面目録の記述項目

(1) 建築家名 Architect
(2) 略歴 Short biography
(3) 建築家についての参考文献 Bibliography
(4) 所在地 Place
(5) 設計段階 Stage of realization
(5)-1 予備調査、スケッチ(初期案); (5)-2 基本設計図とコンペ案(着工前); (5)-3 契約図面と実施設計図(施工用); (5)-4 実測図と地形図(竣工後)
(6) 面の表現 Aspect treatment
(6)-1 平面図; (6)-2 立面図; (6)-3 断面図; (6)-4 詳細図; (6)-5 透視図; (6)-6 鳥瞰図
(7) 縮尺 Scale
(8) 記入文字 Inscription
(9) サインと日付 Signature &/or date
(10) 透かし Watermark
(11) 媒体 Medium
(12) 大きさ Size of Sheet
(13) 出所 Provenance
(14) 彫刻 Engraved
(15) 展示 Exhibitions
(16) 出版物と複製物 Literature & reproductions
(17) 注記 Notes

2.2 ナショナル・ギャラリー・オブ・アート

建築図面顧問グループ(Architectural Drawing Advisory Group, ADAG)は、米国のナショナル・ギャラリー・オブ・アートの研究事業として、ヘンリー・ミロン(Henry A. Millon, 1927–2018)の主導で1983年に設置された。建築図面コレクションを持つ機関において、20世紀中頃までの検索手段は、「原始的なカード・ファイル、リスト、索引」に過ぎなかったという⁴。そんななかADAGでは、目録の電子化を見据えて、建築図面目録の記述法を整備した。事業成果

*さいとう あゆむ(京都大学総合博物館)

の共有も念頭に置いて、米国、英国、カナダ、ドイツ、フランス、オーストリアから 14 機関が参加する、国際的な活動でもあった。RIBA からリバーが参加したが、活動内容は不明である。

事業の結果、記述対象を建築図面に想定して、リレーショナル・データベースと用語統制との考え方が整理され、五つのエンティティで構成される記述項目が定められた。事業成果は 1994 年に、ゲッティ美術史情報プログラム (AHIP) において、記述の指針としてまとめられた⁵。

2.3 コロンビア大学

コロンビア大学の AVIADOR (Avery Videodisc Index of Architectural Drawings on Research Libraries Information Network, RLIN) は、1982 年の秋にアンジェラ・ヒラル (Angela Giral) が同大学のエイヴリー建築美術図書館長に就任したことを契機に具現化した。同館所蔵の図面を対象に、保存媒体へのデータ複製と他機関への媒体流通とを試みて、MARC フォーマットを用いた目録共有の可能性が、国際規模で追求された。

本事業では、建築図面目録の機械可読化、および図面の情報と画像とのリンクを、MARC で実現して、その情報を RLIN で共有するとともに、画像はビデオディスクで頒布した。記述項目と MARC フォーマットとの対応は、北米美術図書館協会がまとめて、1992 年に発行した⁶。この試みは、MARC の利用について、ADAG に影響を与えたという⁷。

3. 考察——目録構成の変化

ロバート・アダムが 18 世紀に描いたスケッチ (RIBA 所蔵) について、各目録での記述を比較した⁸。ADAG (2.2) で、[a] 所在場所と ID、[b] タイトル、[c] 形態、[d] 関連する人物や組織、[e] 主題と建築情報、[f] 利用条件が加わり、AVIADOR (2.3) で、記述項目と MARC が関係づけられた。ここから、記述に関する二段階の発展プロセスを把握できる。他方、リバーが考案した 1969 年の目録形式は、骨子が概ね維持されており、「革新的な記述法」の評価を裏付けている。

表 2 建築図面目録の記述項目の対応関係

冊子目録の項目 (2.1 RIBA)	電子目録の追加項目 (2.2 ADAG)	MARC フィールド (2.3 AVIADOR)
-	[a]	0XX
(1) ~ (3)	-	1XX
-	[b]	2XX
-	[c]	3XX
(13) ~ (17) *(14) 以外	[f]	5XX
(4)	[e]	6XX
-	[d]	7XX
(5) ~ (12)	-	9XX

4. おわりに

本研究では、建築図面の目録について、電子化のプロセスを辿り、その前段階の冊子体の完成度を再確認した。実務では、建築図面と建築レコードとの違いを意識して、適切なアプローチを選ぶ必要がある。また、この発展プロセスを参照すれば、日本における建築図面の目録を評価できる。リバーの米国での活動は不明な点が多いので、RIBA や助成機関に残るアーカイブズ資料を調査して、米国からの影響を明らかにしたい。

¹ アントジェ・B・レムケ+デュアドレ・C・スタム「アート・アーカイヴズ」、水谷長志・中村節子 訳『アート・ドキュメンテーション研究』第 4 号、1995 年、p. 56。

² Royal Institute of British Architects, Catalogue of the Drawings Collection of the Royal Institute of British Architects: Vol. A, Gregg International Publishers, 1969. 以降の全 20 巻。

³ Alan Powers, "Jill Lever obituary," The Guardian, 26th Dec., 2017.

⁴ Henry A. Millon, "A Life of Learning, Charles Homer Haskins Lecture for 2002," ACLS Occasional Paper 54, American Council of Learned Societies, 2002, p. 13.

⁵ Vicki Porter and Robin Thornes, A Guide to the Description of Architectural Drawings, G. K. Hall, 1994.

⁶ Cataloging Architectural Drawings: A Guide to the Fields of the RLIN Visual Materials (VIM) Format as Applied to the Cataloging Practices of the Avery Architectural and Fine Arts Library, Columbia University, Developed for Project AVIADOR, Art Libraries Society of North America, 1992.

⁷ Jan Floris van der Wateren, "Achieving the Link Between Art Object and Documentation: Experience in the British Architectural Library," Library Trends, 37(2), University of Illinois, 1988, p. 246.

⁸ 第三の比較対象は、ADAG 経由で AVIADOR の影響を受けたと思われる RIBA 目録とした。ただし RIBA は AVIADOR と異なり、図面の物的特徴に 789 ではなく 9XX を用いている。Eleanor Gawne, "Cataloguing Architectural Drawings," Journal of the Society of Archivists 24(2), 2003, p. 182. また、RIBA での記述項目と MARC の関係は、以前まとめた表を参照した。齋藤歩「アーカイブズ学に基づく建築記録目録の編成と記述に関する考察——RIBA ライブラリーコレクションと UC バークレー環境デザインアーカイブズの目録比較をとおして」, 『日本建築学会大会学術講演梗概集』, 2013 年, pp. 651-652.